

HSK

どうじん

第 36 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H. S. K通巻230号

発行日 平成3年9月10日
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市北区北13条西1丁目
神原義郎

平成3年 初秋号

道腎協第14回定期総会報告

特集『CAPDの現状と今後の展望』



北海道腎臓病患者連絡協議会

真夜中の電話

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫



「リリン、リリン、リリン」
夜の透析が終って自宅に帰宅した私の帰りを待っていたかのようにつたつた。電話がなつた。

「どなたさまですか。」
「わたくし死にたいんです。」
と、三度ばかりこの言葉を言った。

余りの突然の言葉に私はただならぬ声の来訪者を感じとった。電話の相手は若い女性のように聞こえた。興奮の余り息が乱

れている。

「どうかしましたか。」

と、また問うと彼女はやや暫くして早口で言った。要約すると次のようなことであつた。

彼女はA子さんという28歳の女性でH銀行に勤めているという。一年前から透析に入った。

札幌のH大学を卒業して入社したという。この二、三年前から彼氏ができて親もゆるしている婚約中であつたが、透析に入つて以来、彼氏が遠ざけるようになり、この度電話で婚約を破棄してきたというのである。彼はそれ以後電話もかけてこなく彼女からかけても居留守をつかうというのである。「この10月結婚式の夢を見ていたが、一方的な彼の言葉に前途が暗くなつて死ぬことを思いつめた」とい

うのである。この間延々と20分以上にわたつたが、彼女が言い終えるのをみはからつて私は言った。

「A子さん死ぬのは簡単ですよ。いまの透析を止めれば一週間か10日前後には尿毒症でもがき苦しんで死にますから……。貴女は今日まで生きること努力してきたじゃないですか……。結婚が人生の総てでしようか。そうじゃないでしよう。私の透析仲間の周囲にも沢山の友人が透析によつて結婚を諦めた方が何人か居りますが、その方々もそれぞれ環境のなかで力一杯生きてますよ。確かに婚約破棄されたショックが大きかつたでしようが、貴女がもしその彼氏と仮りに結婚していたとしても遠からず離婚なさつたでしよう。」
「むしろ婚約を解消したことが貴女にとつて逆に幸福でなかつたでしようか。そのことをよく考えてごらんなさいな。職場と趣味でも透析を忘れて楽しく力一杯生きることです。決して孤独にならず沢山の友人をもつことです。貴女には別な素晴らしい人生が必ずあります。今回の結婚は忘れなさい。」

勇気をつけるために強く言ったのである。

そして私は最後に、

「私の連絡先をどうして知りましたか」と尋ねたところ、「透析仲間の友人が機関紙『どうじん』を見せてくれたのです。この人だつたらきつと私の相談のつてくれそうな気がして……。』」
と思つたという。余韻をのこして彼女は電話をきつた。

その夜私は突然の電話の来訪者に頭が冴えて眠れなかつた。

明けて翌朝、また昨夜の彼女からの電話があつた。昨夜とは打つて變つて晴々とした艶のある音声が電話に流れてきた。

「死ぬのは止めました。力一杯生きることにしました。」と言つ。

そして「道賢協に加入します。その節はどうぞよろしく」と言つた。昨夜のことは遠い昔のことであつたかのよう……。]

その朝、昨夜来の降り続いた雨もさわやかに晴れて朝の陽がさんさんと窓辺に入り、庭の満開に咲いた牡丹の花の香りがムンムンとする朝であつた。

6月2日

道腎協第14回総会開催される

道腎協結成以来14年間、患者会員の医療と福祉の向上を目指し、幾多の困難を克服して運動を進めて参りました。

しかし、昨今私達透析患者を巡る状況は依然として厳しく、長期透析による合併症の問題、患者の高齢化による介護問題、さらに国は福祉8法の改正による地

方自治体への社会保障費の転嫁等、国の責任による社会保障の国庫負担を減らそうとしています。

私達は、このような困難な流れの中で、この1年、活動を展開して参りました。

総会は、昨年1年の成果と本年度の活動方針を約20名の会員出席で活発な討議が行われました。



平成3年6月2日、札幌市の北農健保会館で道腎協第14回定期総会が全道から参集した会員約120名の方々の出席を得て開催されました。

上田副会長の開会の挨拶で始まり、続いて全員で物故会員への黙とうがなされました。

岩崎会長の挨拶の要旨は以下のとおりです。

「全腎協第21回東京大会に参加してきたが、今回は20周年記念という事で、アメリカ、オーストラリア、韓国の3カ国の透析患者の代表が集まり、公開シンポジウムが

開催されていきました。」「アメリカでは透析医療費の削減があり、50%、60%の患者が透析不足で苦しんでいる。韓国では透析の自己負担が2割あるので大変厳しいということでした。オーストラリアは今の所自己負担はない」それから、来年の第22回全腎協総会は、北海道札幌市で開催されるので沢山の会員に参加・協力して欲しい」とのことでした。

続いて来賓の皆様から、会員に対する激励、本会への協力を披歴して戴き、祝電・メッセージの紹介が行われ、釧路地方腎友会の橋



本蔵氏を議長に選出し議事に入りました。

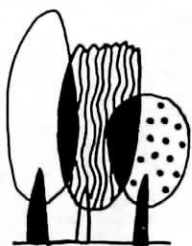
まず昨年度の活動報告が堀井事務局長より行われ、次いで川村会計より決算報告、安江・村本両監査より会計監査の報告が行われ、質疑応答のあと全会一致で承認されました。

そして今年度の活動方針案が岩崎会長から、川村会計から予算案の説明があり、いずれも原案通り承認されました。

そして規約改正案、役員改選案、スローガン、総会宣言、すべて全会一致で承認されました。津田副会長の挨拶で閉会しました。

昼食休憩の後、「腎移植の現況と今後の展望」というテーマで市立札幌病院腎移植科の平野哲夫先生による医療講演会が開催されました。

この講演会の内容は、次号のどうじんに掲載予定です。



こ 来 賓

祝電・メッセージ



北海道議会議員
大橋 晃氏



(財)北海道難病連代表理事
三森礼子氏



北海道腎臓移植者連絡協議会
会長 松浦信博氏



弁護士
いかり康代氏

北海道議会 日本社会党道民連合
議員会会長 保格博男氏、北海道
議会 公明党議員団、参議議員・
弁護士 高崎ゆう子氏、北海道透
析医学会会長 猪野毛健男氏、札幌
透析医会会長 田島邦好氏、北海
道保健環境部保健予防課長 森實
速雄氏、札幌市衛生局保健衛生部
保健課長 大弥勉氏、宮の森記念
病院名誉院長 片岡是充氏、中外
製薬札幌支店長 星川良一氏、日
機装株式会社北海道営業所所長
小林睦男氏、三井製薬工業株式会
社札幌支店長 堀場孝彦氏、ガン
プロメディカル(株)、北海道臨床工
学技士会会長 井関竹男氏、透析
食栄養士研究会会長 成田博子氏、
全国腎臓病患者連絡協議会、岩手
県腎臓病の会、宮城県腎臓病患者
連絡協議会、秋田県腎臓病患者連
絡協議会、山形県腎臓病友の会、
福島県腎臓病患者連絡協議会、栃
木県腎臓病患者友の会、群馬県腎
臓病患者連絡協議会、埼玉県腎臓
病患者友の会、千葉県腎臓病患者
連絡協議会、東京都腎臓病患者連
絡協議会、富山県腎友会、石川県

腎友会、福井県腎友会、山梨県腎
友会、長野県腎臓病患者連絡協議
会、岐阜県腎臓病患者連絡協議会、
静岡県腎友会、愛知県腎臓病患者
連絡協議会、滋賀県腎臓病患者連
絡協議会、京都腎臓病患者協議会、
大阪腎臓病患者協議会、兵庫県腎
友会、鳥取県腎友会、島根県腎臓
病患者連絡協議会、岡山県腎臓病
患者連絡協議会、広島県腎友会、
徳島県腎臓病患者連絡協議会、香
川県腎臓病友の会、愛媛県腎臓病
患者連絡協議会、高知県腎臓病患
者友の会、福岡県腎臓病患者連絡
協議会、佐賀県腎臓病患者連絡協
議会、長崎県腎臓病患者連絡協議
会、熊本県腎臓病患者連絡協議会、
大分県腎臓病患者連絡協議会、宮
崎県腎臓病患者連絡協議会、宮
島県腎臓病患者連絡協議会、沖縄
県人工透析者連絡協議会



全腎協第21回定期総会報告

全腎協総会に参加して

北海道腎臓病患者連絡協議会

副会長 上田 弘(釧路)



この度行われた全腎協の総会に、北海道から数名の方々と共に、私も参加させていただくことができました。

今年度は21回総会と、全腎協結成20周年の記念行事が並行して行われ、外国の腎臓病患者を招待しての、国際的な20周年行事でありました。

時間の制約もあり、多くのことは知り得ませんでした。思いっくまま記してみます。

招待して参加された方は、アメリカ・オーストラリア・韓国の方で、それぞれ自国で患者会の活動をしておられる方々でした。

アメリカ

○透析費用は、保険に加入している場合は保険会社より支払われ(93%)ですが、7%の人が保険に加入していない状況であります。

○19カ所の患者会支部があり、入会率が低く、現在の会員は7、000名程度であります。会の財政規模は約45万ドルであります。

○ダイアライザーの再利用が行われ、効率が80%を基準として判断されており、10〜20回の再利用

用となり、50回使っている人もいます。

○アメリカの現会長は、19歳から26年間透析を行っている患者で、現在、透析の専門医として活躍しています。

オーストラリア

○オーストラリアから来られた方は、13年前に移植を行ない、10日間で移植腎がだめになり、現在、家庭透析を17年間続けている方でした。

○患者会は、1969年に発足さ

れ、会員が500名となっております。

○家族の普段の苦勞を解放する意味で、キャンペーンを行っている。

○腎移植の成功率(12ヶ月率)は85%であり、移植を5回行った人もいます。また、移植者のスポーツ大会も行われ、休暇をスタッフと共に過ごす工夫をしています。

○オーストラリアにも覆面委員会(透析者を選別する)的なものがあるようです。

○家庭透析の機械は、現在では国が無料で提供してくれています。

○エリスロポエチンは、患者全員に与えられないので、今後、運動していく必要があることを訴えていました。

○ダイアライザーを6回も再利用していたこともあるが、現在では1回の使用となっているようです。

○家庭透析は感染が非常に少なく、ホームトレーニングセンターで6週間の指導を受けてから行われています。

○腎バンクはなく、血液銀行でその業務を対応している。



韓国

○患者会は、1979年に11名で発足され、1991年現在では会員が500名程度となっております。

○透析施設は、ソウル地区に35ヶ所で412台しかなく、現在の状況では不足気味で、また、夜間透析も行われていない状況であります。

○病院では、看護婦1名で8名の患者を受け持っています。

まとめ

○患者会は、3国とも1970年代前後に結成されている。

○医療問題がきっかけとなり、患者会が結成されている。(オーストラリアは別)

○アメリカ・オーストラリアでは、家庭透析・移植が進んでいる。

○韓国では1回に3,000円の自己負担があり、アメリカでは保険会社の定額支払い方式となっている。

○お金の関係で日本も患者運動が始まっている。
以上が、国際シンポジウムの

状況ですが、日本の福祉制度が恵まれていることが、特に感じたシンポジウムでありました。
透析患者数の世界1位は、決して喜ばしいものではありません。

全腎協総会に出席して

北海道腎臓病患者連絡協議会

副会長 津田嘉郎(小樽)



全腎協第21回総会は、結成20周年記念を兼ねて東京に於いて開催された。それだけに内容の充実した盛大なものであった。この意義のある総会に出席出来た事は、私にとつて大変恵まれたことと感謝しております。道腎協においては平成4年の第22回全腎協総会を北海道において開催決定を受けて、多くの事を勉強する事を兼ねて、

腎臓病の早期発見・早期治療で透析への移行をくいじめ、また、腎移植の推進により透析患者の減少を図っていかねければならないと思います。

出来るだけ多くの会員の参加を募ったところ約20名近い方々の出席がありました。私も道腎協役員を拝命して以来約10年を経過しておりましたが、今回初めて参加する事が出来ました。昨年未まで診療所の事務に勤務しておりましたので業務の都合上休暇を取ることが出来ず心苦しく思っていました。退職を機に事情の許す限り道腎協に協力したいと考えていた矢先だけに、この度初参加させていただいた事は大変貴重な経験をする事が出来たと感謝しております。
出発の際は好天に恵まれ東京入りしました。土曜日の午後という事もあって街の中の混雑は少し緩



和されてはおりましたが、大都会の騒々しさに圧倒されながら宿泊先に到着しました。夕刻から20周年記念の交流会が開催され立食式のパーティでしたが、約200名を超す盛大なものでした。歓迎の辞に続いて出席者の県別紹介と続きパーティに入りました。和洋折衷の料理に少々アルコールが入った所で、明日総会後に開催の国際シンポジウムに出席のアメリカ腎臓病患者協会理事のバーバラ・シュワルツさん(女性透析歴7年)、韓国腎臓協会事務局長の金応気さ

ん(男性透析歴10年)、オーストラリアニユウサウス・ウエルズ州腎臓協会副会長バルリ・トウエンティーマンさん(透析歴17年)夫婦が紹介され、今回招待された事についてお礼を述べられ今後の交流を深めたいと挨拶された。続いてゲームやのど自慢に時の経つのも忘れるような状態でした。

その間東腎協の患者や役員の仕事細かな企画とお手伝に本当に感謝し、これは大いに勉強しなければならぬと思われました。来年札幌での開催となれば、その企画は大変な事であろうとしみじみ感じましたし、是非とも成功させねばならないと決意を新たにした次第です。翌26日はホテル向いに有る笹川記念館にて総会が9時30分より約800名参加のうちに開催されました。

開会の辞に始まり会長の挨拶・祝辞・祝電披露など型どりの行事があり、議事に入り多くの議案は滞りなく全会一致で可決承認されました。正午に閉会となり昼食(休憩の後、午後は記念行事である国際シンポジウム「世界の腎不全患者とその運動」と題して、昨夜パーティーに出席された方々と全

腎協会長油井清治氏が新たに加わり、各国の今日までに到った透析医療の現状を説明されました。各パネラーはそれぞれの言語で発表されましたが、それを同時通訳され備付のイヤホンで聞けるなどしました。医療水準はそれぞれ国柄によって事情はまちまちで、特に

韓国の現状は我が国の10年前の状態である事に同情するばかりでした。色々な点で我が国の現状は一番思まれているし、他の国の状況を聞くにつけ患者の運動の如何に大切であるかがひしひし感じられ、先輩各位の身を粉にして尽力された賜物と深く感謝した次第です。

その他会場別室には会員の絵画・写真・陶芸・手芸作品が展示されて大会に華を添えており、各透析関連の企業の協力で20年間の透析機器の変遷を展示の形で数多く紹介されており、非常に興味深いものでした。この様に木目細かな企画がなされ、そつなく進行された東腎協の皆様のご尽力には本当に感謝いたしましたし、我々道腎協にとって明年開催の全腎協総会に対処しなければならぬ多くの事

柄を勉強させていただきました。ひるがえって患者運動の如何に大切であるかを身を持って体験した次第です。

これからもより一層の結び付き

札幌「東区健康祭り」で 腎バンク31名の登録者

を強め、充実した患者会の組織作りに努力し、今後も増え続けるだろうところの透析者の生活の向上に寄与しなければならぬと心に誓いつつ帰路に着きました。

6月23日、東区の伏古公園で「東区健康祭り」が開かれました。

同祭りは、地域の団体自治会、老人クラブ、勤医協病院、開業医など10数団体が実行委員会を作り、医療従事者と地域の人達が交流を深め、「平和で健康な街づくり」を始まり、今回で8回目を迎えました。

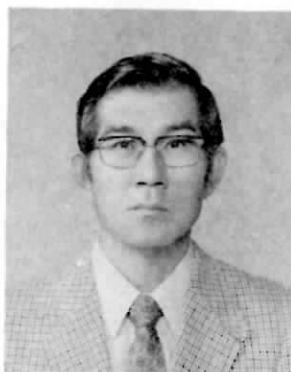
今回も勤医協で透析を受けている患者でつくる勤医協腎臓病友の会と医療スタッフが協力して、腎バンクへの提供登録を呼びかけたところ、31名の方が登録して下さいました。

勤医協腎臓病友の会と勤医協医療スタッフの皆様ならびにご協力いただきました方々心より感謝いたします。

CAPDの現状と今後の展望

岩見沢市立総合病院

副院長 大平 整 爾 先生



腎臓の機能が高度に障害された場合に、その機能を代行せしめる療法には今日(1)血液透析、(2)腹膜透析そして、(3)腎臓移植があります。最も望ましい治療法が腎移植であることはよく知られた事実なのですが、献腎がこの国では十分であるため、その恩恵に浴している方々が限られているのは誠に遺憾と言うほかありません。社会全体の賛同と協力を一層得るよう

に今後も努力していかなければなりません。さて、日本透析療法学会が集計した1990年12月31日現在の『我が国の慢性透析療法の実況』(アンケート回収施設…2、101施設、回収率96・4%)によると本邦の慢性透析患者は103、296名と10万人を越えました。CAPD症例は4、536名と記録されており、全体の4・4%に相当します。北海道では慢性透析患者4、534名でCAPD例は165名ですから3・6%で全国平均をやや下回っています。昨年末からも増えており本道のCAPD例は250名を越えているものと推定されます。

世界各国の慢性透析に占めるCAPDの比率は様々です。メキシコは76%と著しく高率で、イギリス45%、カナダ36%、オーストラリア31%、デンマーク24%、スエーデン22%、アメリカ17%、フランス11%。イタリア・ドイツが7%、5%で我が国と大差ありません。近年、各国で共通しているのは、血液透析患者の増加率に較べるとCAPDの増加率がかなり大きいということでしょう。これまでも指摘されてきましたが、CAPDは既に試験的な期間を終了して本格的な臨床の場へ乗り出してきた段階です。つまり、ブラッド・アクセスの不調や心機能の高度障害のために通常の血液透析を継続しえない人々に対して、いわば緊急避難的に行われてきた本法が社会復帰などを主眼により積極的に選択されるようになりました。ネガティブ・セレクションからポジティブ・セレクションへの転換という訳です。CAPDで元氣

に社会復帰している人々の中には既に10年以上になった方も出てきています。

私共の病院にも9年を経過した方がいて、頑張っています。現在、全世界に38万2千人の慢性透析患者が存在し、その約16%、6万2千人がCAPD療法で生命を維持しております。

実に大変な数であると思います。この療法で現在、問題となつていく幾つかの事項について以下要約してみることにしましょう。

(1)腹膜炎…CAPDを長期継続していくなかで、いつも問題になる点で、確かに一旦本法を始めながら繰り返す本症のために中止・中断しなければならぬ最頻の原因です。明らかな手技上の誤りが判る場合のみではなく、その要因を明確にしえないケースもないわけではありません。CAPDは自宅医療ですから、こうした事態になると医療スタッフはつい患者さんの操作ミス責めがちで、このことがこれを行う人の自信とプライドを傷つけがちであることには、私共も大いに反省の余地があります。幸い、透析液バッグとカテー

テルとの接続部に関しては種々の改良がなされており腹膜炎の発生頻度は激減してきました。

ではあっても初心を忘れず基本に忠実なバッグ交換手技が最重要事項であります。

この腹膜炎はどの施設でも特定の患者に飛び抜けて高い頻度で発生する傾向があり、再教育の必要性がよく言われますが、医学的な原因があればCAPDに適していないと判定せざるを得ないこともあります。

(2)装置の改良…透析液バッグは液注入後、折り畳んで腹部に巻き付けておくのが従来の方式でしたが、バッグを取り除くバッグレス法も普及してきました。前述のようにバッグ交換に伴う細菌汚染の防止のために色々な工夫がなされ、二重・三重のプロテクションが考案されてきております。1日4回のバッグ交換も毎日のことになる大変な労力であり、睡眠中に機械的に液交換が可能な装置も開発されています。CCPDなどと称される変法もその一つです。自動腹膜灌流装置サイクラーが必要となりますが、次第に普及するでしょう。

う。社会復帰により好適だからです。

(3)いわゆる自由食への誤解…おなか(腹腔内)に2リットル前後の液体が注入、貯留されるわけですから、おなか膨れて食事が十分に取れないのではないかという懸念が誰にでもあるようです。しかし、日が経つにつれて腹壁が次第にのびてきて、この程度の液量には満腹感を感じなくなるようです。

ひところCAPD療法には食事制限は不要であるとの考えがあり、この点が魅力でこの治療法を望む人々が増えました。腹膜透析液の浸透圧を上げると除水量は増加し、一日に1・5〜2・0ℓの水分を除去することは可能ではありません。しかし、浸透圧の高い(つまり濃い)液をあまりに頻回使用することとは腹膜への刺激も強く長い目でみると、腹膜の機能を損なう結果になってしまいます。ですから、CAPDでは水分摂取は血液透析に較べて多少緩和されるとは言ってもまったく飲み放題というわけにはいきません。液の浸透圧はブドウ糖の濃度で調整されているの

ですが、このブドウ糖は体内へ吸収されることとなります。使用する液の種類によって違ってきますが、一日におよそ1000グラムに達し熱量にすると約400キロカロリーにもなります。ですから、この点を無視して食事をするとその分だけ脂肪となって蓄積されて高脂血症・肥満の原因となります。CAPD例ではカリウムの心配は血液透析に比較してはるかに少なくなり、この分だけ果物や野菜を自由に食べられるようになるのは嬉しいことです。ではカルシウムとリンはどうでしょうか。最近では活性型ビタミンD剤が出てきましたので、透析液内のカルシウム濃度はむしろ低目にある方が使用しやすくなってきました。リンはCAPDで一日におよそ300〜400mg除去されますが、これは血液透析の場合に較べるとかなり少なくなっています。それでも全てのCAPD患者の血清リン値が著しい高値をとるわけではあり

ません。タンパク合成の亢進でリンが細胞内へ取り入れられて所定の部位で定められた作用を行うからだ

されています。血液透析患者に較べて少ないとは言え、高リン血症が存在するのは事実であり、タンパク摂取量を適正にした低リン食は不可避と心掛けるべきでしょう。ご承知のように高リン血症は腎性骨症(二次性上皮小体機能亢進症)・腱断裂・かゆみ・皮膚壊死・異所性石灰沈着など様々な悪い結果をもたらします。

(4)腹膜機能と適正透析量…CAPDは腹膜を介在して水分の除去と溶質の出入りを行うものであり、腹膜が正常の機能を長く維持することが長期にこの療法を続けるうえで大変、大切なこととなります。腹膜機能についてはその微細構築を含めて種々の知見が最近、解ってきております。やはり、繰り返す腹膜炎や濃い透析液を頻回に用いることは良くないようです。

溶質は除去できるが、除水の能力が低下してしまう症例がぼつぼつ出てきております。

数か月CAPDを中断して腹膜を休息させる方法が有効とも報告されています。いずれにせよ、腹膜は透析器のように使い捨てというわけにはいきませんから、上手

に大切に使用していくことが肝要です。血液透析では種々の指標を基に透析量を決定します。具体的には至適体重を定めダイアライザー、血流量、透析時間、1回の除水量を定めます。血液透析ではこの仕事をスタッフが行っており、かなり正確に数字的に計算しうるものなのですが、CAPDでは少し様相が異なってきます。

CAPDでは液濃度の選択・液停滞時間・バッグ交換の回数などで透析量を調整するわけですが、ある程度以上は患者さんが自ら行い得る力が要求されます。体重の調節も血液透析なら1回で可能なことも多いのですが、CAPDではそれより幾分、時間を要します。そうした治療法の特性を理解する必要があるります。

(5)独立心と工夫の精神…病院血液透析では来院のたびに医師・その他のスタッフ・なじみの患者さんに会うことが出来ます。在宅医療たるCAPDでは大抵のことは自ら行わなければなりません。通常以上の勤勉さを保ちながら、孤独感に陥ることなくバッグ交換を継続しなければなりません。

正直に申して血液透析を受ける人々は一一般に他への依存心が強いと言わざるを得ませんが、同じ精神ではCAPDを長く継続することは困難のようです。月に1〜2回の受診時には同じCAPDを受ける人々とは会えるわけで、この機会をお互いの情報交換の場とするのが良いようです。

CAPDを続けることで培われた孤立心が社会生活にも大きなプラスになったと言つて下さる方もいます。

(6)医師・患者のバイアス…施設によってCAPDを行う患者の比率はかなり大幅に違っているのが現状です。私は全ての慢性腎不全の方々にCAPDをとら思つておりませんが、治療法の一つの選択肢として、医師も患者も考慮して良い方法ではあろうと信じております。現在行つておられる方々は長く継続出来ますように、新たにこのCAPDを選択される方はこの療法の特徴を十分に学ぶことを切望します。

ブレック使い

札幌ブロック

“ふとみ銘泉への旅”

札幌腎臓病患者友の会

札幌腎友会の年度始めの行事として、ハイキング実行委員会では石狩別に、古くから湯治場として知られ、今春から5階建のビル

に改築され“ふとみ銘泉”としてデビューした温泉へ、日帰り旅行をしました。

6月23日(日)、当日は晴天に恵まれ、集合場所の地下鉄麻生駅ダイエー前を出発して約30分、目差す“ふとみ銘泉”へ10時に到着。参加者は49名、ゲームコーナーを兼ねた1階フロント横で、ロッカーキーと浴衣等を受取り、4階の大浴場へ直行です。

大浴場は普通の浴槽の他に、総桧作りの露天風呂、バブル風呂にサウナ室、水風呂、シャワー室に化粧室といった具合で、参加者もそれぞれが12時の会食時まで、ゆったりと、くつろいでおりました。各階にはそれぞれ特設コーナーがあり、一日のんびり出来る様になつ



ていました。

会食時には、5階の一間に、男女別ではありますが、同色の浴衣を着て集まり、食事をし、その後でビンゴゲームで盛り上がりました。その後、2時の帰りのバスの時間まで、もう一度温泉に入る人や、ゲームセンターで遊ぶ人と様々

道南ブロック

3年度の総会を開催

道南腎臓病患者連絡協議会

道南腎協（田中政夫会長）は、6月23日、市内のホテルに於いて平成3年度の総会を開きました。総会は、会員65名、委任状73名の出席により午前10時から始まり、最初に、この一年間にお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りし出席者全員で黙とうを捧げ会長の挨拶へと続いていきます。

挨拶の中で会長は、「日本の透析医療技術の水準は世界でもトップクラスである。しかし腎臓移植となると諸外国と比べ大変遅れていると言わざるを得ない。腎パンク

でした。初めての試みで、時間ももうすこし余裕があっても良かったかなあと思っております。

2時半に無事、地下鉄麻生駅前で解散しました。又来年も出来ればと考えております。

（報告・村本徳雄）

への登録者拡大等、移植に対する国民の理解を得ていくことが重要である。また、透析患者は年々増え続け10万人を超える勢いで、このことにより透析医療費が増大してきており、厚生省の医療に対する締め付けが予想され将来は決して甘くはない。それだけに福祉政策が我々に不利益になる方向へ進ませないよう、組織の強化のため仲間を増やし、全員が力を合わせて行動することが大切である。」と述べ、会活動への協力を要請しました。



次に来賓として、難病連函館支部の近江忠支部長から「今日まで、難病という精神的にも肉体的にも悩みをもつ患者が一つになり、その願いを国や地方自治体に働きかけ、様々な問題の解決を図ってきた。しかしながら、社会福祉政策は法律等で守られていないため、時の政治、財政事情で変わるものである。政府は医療の適正化、効率化を言うが、その狙いは医療費の削減にある。その中で難病加盟団体の最大組織である皆さんの活動は、全国難病患者の支えであり



ます。真の豊かな国づくりや地域環境を問いかけながら福祉の後退を許さぬ体制をつくり、みんなを許さぬ体制をつくろう、みんなを頑張っていきましょう。」との激励の挨拶があり、議事へと進んでいきました。

議事は、平成2年度活動報告から平成3年度役員改選まで順調に進行し、最後に総会宣言を満場の拍手で採択し総会を終了いたしました。

総会終了後、今年度で透析生活10年を迎える12名の方々に、その頑張りを称え、記念品が贈られました。

した。

その後、市内鳥居泌尿器科医院院長鳥居恒明先生より『合併症あれこれ』と題して医療講演があり、合併症の中のかゆみについて、かゆみの定義から原因、対策までと、こと細かに説明され、出席者はメモを取るなど真剣に聞き入っていました。

苦小牧ブロック

医療講演会開催

苦小牧つくし会

平成3年7月28日、曇り日が続いていたなかでは、めずらしく晴れ渡った日曜日。つくし会主催の医療講演会が市内福祉会館2階大会議室で行われました。これは今年度から学習委員会が設けられ、この委員会が主催したものです。初めての試みなので会長はじめ委員の皆さんは、ぞくぞく集まってくる会員、非会員（透析患者の家族の方、これから透析を受ける予定の方、又一般の方など）に嬉しい様子で応対していました。結

講演終了後、別室に用意された弁当を食べ、それぞれに親睦を深め、この一年間も元気で頑張るところを誓い散会しました。

なお、今総会にメッセージ・祝電をいただきました。道腎協、札幌腎友会、釧路腎友会の皆さん、ありがとうございます。

（報告：杉田正博）

局62名（うち会員50名）の出席を得まして講演会が定刻を5分過ぎた午後1時5分から始まりました。最初に会長の挨拶が10分程あり、これから透析生活をスムーズに送るには、いかに多数の会員の協力が必要かと強く呼びかけるものでした。いよいよ講師である千秋肇先生のご紹介です。千秋先生は市内で開業しておられ、内科の他に透析をお世話下さっている方で、小柄な人ですがバイタリティーにあふれ、透析に関しては意欲的な

取り組みをされておられる方です。

透析患者としましては頼もしく拝聴しました。又先生は北大在学中に「腎臓病と抗生物質の関係」をテーマに研究グループをつくり、その研究のレポートをスライドで説明して下さいました。研究の為にお犬さんを多数犠牲にし、今だに心が痛むこと、研究所まで連れて行く途中の苦勞など当時のエピソードをまじえ、先生のお人柄をうかがわせるお話でした。「腎臓の働き」これはスライドでしたが、私の席からは見えやすく視力が弱いもの

手伝ってあまりよく見えなかったのですが、私も透析生活10年なので腎臓の働きはある程度解っていました。多くの方、特にこれから透析を受ける人は参考になったと思います。「エリスロポエチン（エポ）」の話。これは薬品会社製作の映画をまじえ、その研究過程の失敗、成功の様子を、又、エポを使用する前の患者の様子、使用してから元気になった様子を映像で見ました。

私もエポのお世話になっている一人ですので、映し出されたものは私の現在の姿そのものでしたので、エポに感謝、そしてそれを研究開発して下さった方々に深く感謝するものでした。

最後に先生のお話で「腎臓病の歴史」「造血の原理」「薬剤投与による症状」「食事療法」などでした。低リン低カリウムでおいしいサンドビスケット、やはり低リン低カリウムのだしわり正油（キッコーマン）など、神戸で行われた第36回日本透析療法学会に出席されて得た情報など、尚今後はこれ等の食品のことも積極的に取り組むつもりとのお話でした。そのうち私



も食してみたいと思いました。最後に質問コーナーがありました。あいにく席を立ったので詳しくはわかりません。一人質問者があり、自己管理のこのようでした。これはすぐ終り予定の二時間を少しオーバーした3時20分過ぎ講演会を終えました。千秋先生を中心に主だったスタッフをカメラに納め

滝川ブロッコ

雨竜沼へ登山

腎友会滝川クリニック透析者の会

腎友会滝川クリニック透析者では、計画に基づき雨竜沼へ登山を7月7日実施しました。

早朝7時出発とのことで病院駐車場にそれぞれが登山姿で集まり、滝川40名、岩見沢25名の65名でバスの到着を待っていました。予定の時間になってもバスが到着せず、朝霧の中、寒さをこらえてバスを待つ間、病院の敷地内にあるさくらんぼの木に一人二人と登り、さくらんぼを取りはじめ、最後には院長先生も取りはじめました。

散会しました。私の感想としては、自己管理の悪さによる具体的な事例をもう少しお聞きしたかったようにも思いました。

終りに、ご多忙の中を私達の為にご講演下さった千秋先生に心からお礼を申し上げまして報告を終わります。

(報告・佐藤千愛)

しばらくして、ようやくバスが到着し2台のマイクロバスとボンゴ車で院長先生の奥様の見送りを受けて出発し、新十津川町、雨竜町を通り、雨竜沼に向けて車は進みました。昼食は雨竜ダムでとる予定でしたので、6名の準備員をおき雨竜沼ゲートパークまで2台のマイクロバスで行き、いよいよ雨竜沼の登山開始です。皆さん元気よく出発しました。私もこの程度の山であればと軽く思い、あちこち山の風景をながめながら50



0〜600メートル行きました。ところが細かい道で山石だらけ、それに竹の根が出ており急斜面で膝の関節が伸ばされにくいような場所も数ヶ所あり、私は休み休み登りましたが、院長先生の元気のよさにはおどろくばかりで、若いスタッフ方にも負けないで一番のりで到着していました。また患者さんの中にも院長先生と一緒に到着した方も多く、ゲートパークまでは約4・5キロ程度であります。急斜面のため10キロも15キロもあるように思いました。目的地に到

着した時は、暑寒の山にはまだ残雪があり、空は青く沼地にはいろいろな花が咲き、空気がとてもおいしく感じました。

沼の中央で軽食をとり、いよいよ下山である。下山の山道は数日続きの天気で、ほこりの中の下山となりました。ゲートパーク到着の時は顔も衣服もほこりだらけであり、ゲートパークの沢で顔を洗いマイクロバスで雨竜沼まで下山し、ダムのほとりでお待ちかねのジンギスカンを全員で食べながら時間遅れの昼食を和やかにとり、帰りの時間となり最後に院長先生のご挨拶をいただき、マイクロバスは病院に向けて走りました。私は患者さんの皆様方、女性の方も全員が完走されたことを大変嬉しく思いますとともに、御協力をいただきました院長先生はじめ、スタッフの皆様方に心より御礼申し上げます、終わりと致します。

(報告・植那勝司)



定期総会開催

十勝地方腎友会

6月9日帯広市総合福祉センター大会議室にて、北海道腎臓病患者連絡協議会会長岩崎薫氏を迎えて、平成3年度定期総会が開催されました。午前10時30分より開催、開会の言葉、副会長の菊地末三郎氏が「会員一同が組織的に医療問題をともに考え、病気を持った私

たちがどの様に安心して生活できるか、今日の総会を立派に成功させることを期待して挨拶に変えさせていただきます。」

会長 木村幸雄氏の挨拶、「お忙しいところ日曜日で各学校の運動会がある中、多数の方の参加されましたこと有難う御座います。今



日この総会に岩崎会長をお迎えして総会できますこと本当に有難う御座います。各大事な身体(命)にかかわる定期総会をむだにせず会を進めていきご協力をお願い致します。十勝地方腎友会が結成され7年、大きく変わり会員も増え組織的に重大さが、また責任を感じるところです。医療問題が叫ばれているとき、会員一同が真剣に考える必要があると思います。」

「毎年の、国会請願書の署名運動、募金等の協力していくことが会員を守ることに、組織の拡大をするには、各病院で患者会を作り組織の充実、基盤に力を尽くされ一人でも多くの会員を入会されますことをお願い致します。」

木村会長は自ら「要望があれば何処でも出向き会員の理解を幅広く伸ばして行く。帯広市市長との連携を取り会の発展になお一層努力していきたく思います。以上皆様のご理解とご協力をお願いし挨拶に」と言葉を結びました。

亡き透析患者の冥福を祈り一分間の黙とうする。

来賓挨拶の中から、
衆議院議員、外務政務次官、鈴

木宗男氏、(秘書)喜多龍一氏

鈴木政務次官はソ連、中国、モンゴル等歴訪につき、代理として秘書の喜多龍一氏が挨拶され、十勝地方腎友会会員の大変な病氣と戦い腎移植街頭キャンペーンには全面的に協力をさせて戴いて、腎移植登録に頑張っていたきたいと挨拶にかえた。

道議会議員、水津丈夫氏

団体をもつ難病腎臓病患者の皆様、医療、福祉に対し横路知事との予算関係において行政と取り組む、ハンディを克服して社会復帰して頑張っていけますことを心からお祈り申し上げ、又今日の定期総会大変おめでとうございます。

北海道腎臓病患者連絡協議会、
会長 岩崎薫氏

透析の機械が良くなり現在透析患者の寿命が長く、平均10年から20年にも寿命になっています。当然、患者も増え医療費も増える事現実である。

アメリカは国の予算が減り、病院側は透析は魅力なく(利益減少)一人でダイアライザーを10回から50回も使用しなければならぬ。経済的に大変になっています。日

本では一回一回ダイヤライザーを取替えている。またアメリカ、韓国の透析時間が3時間で終わらせる為、透析導入後の生存率が日本に較べて低いです。

会長自ら現職のうちは透析患者のため命あるかぎり、会員一同会の為にまた自分のためにも運動を進めていきたい。その他いろいろと関連あるお話があり来賓挨拶を終わりました。

○道腎協幹事、藤田一義氏(すとう病院)道腎協幹事に出席し
ての報告

医療問題、個人負担問題が厳しくなっている折、会員一同が組織的に強力に運動するように。一部負担を支払っている県がある。透析患者の増加で患者負担が目前に迫ってきていることを自覚するように。沖縄、愛知県、その他の県で一ヶ月1万円、年間12万円の個人負担を強いられています。段々と、負担金が多くなることに監視していききたいものです。

議長選出、畠正吉氏(すとう病院、患者会会長)

畠正吉氏が選出され議事に入る。
平成2年度活動報告(会長木村

氏)、平成2年度会計報告(鈴木茂氏)、平成2年度会計監査報告(川股政一氏)、平成3年度活動方針(案)(会長木村氏)、平成3年度会計予算(案)(鈴木茂氏)以上議案通り進行する。

○年々諸物価の値上がりで年会費一人6千円で決定する。
○年間行事に関する実行委員を決定し発表する。

難病連 全道大集會に参加して

十勝地方腎友会

平成3年7月27日(土)午前9時出発。すとう病院前マイクロバス(30人乗り)この日は朝から雨が降り続き気分的に少し出足が鈍る。

しかし参加者は出発時間前に集まり出発した。すとう病院から野原婦長、田口看護婦さんが私達透析患者の緊急手当要員として参加して下さいました。会員は安心しての旅で楽しいバス旅行でした。

バスには27人乗車し洞爺湖へと車を走らせ、日勝峠を過ぎて太陽が時々顔を出し、あたりの景色を

○平成3年度、新役員の発表、副会長に高梨利作氏(厚生病院)、幹事に岡崎由紀夫氏(西病院)木村会長より発表される。

閉会のことば、松田ツカさん(帯広クリニック)今後とも皆様との協力により良い腎友会を作り安心して生活を出来まことを願い閉会の辞とする。午後2時全部終了しました。(報告・佐藤武夫)

みながらの旅。透析患者はなかなか旅をする機会がないが、思い切ったの旅である。車内でのゲームはビンゴゲームと車の台数当て(時間決めて)で土曜日とあつて思ったより台数が多いのにはびっくり。ほとんどの人が当らず、台数に近い人から順位を決めて全員の人に景品が当り受け取る度に喜び、笑顔が楽しそう。

11時30分、ドライブインに到着。昼食のメニューはカツ丼、冷たい氷の入った水に皆んなは一時の休

憩で意気盛んなる顔に見えた。昼食をすませ、ドライブインを出発。さんさんと太陽のもと車はスピードだして目的地へ。3時間位車を走らせてから白老市街地に寄り全員が車からおり、おいしい空気を腹一杯吸入する。少々時間をとり色々な話に花を咲かせていた。

焼ジャガイモ・トウキビを食べながら写真を撮る。一服して出発する。天候も良く夏の太陽の中であたりの海岸に目をくぼっている間に車は洞爺湖へと走る。宿泊先



の洞爺湖観光ホテルへは午後5時30分に到着。出発してから約8時間半かける長旅。皆さんは元気で具合の悪い人も出ず無事到着し、ほっとした思いが先に立つ。各自決められた部屋で一服。夕食の時間がきて地下1階の食堂にて数多い御馳走に満足。部屋に戻り温泉風呂へと足を進める。疲れた体を温泉にたっぷりつかり、明日の分科会参加のための体調を整える。

8時頃から夜を彩る湖の花火大会。目の前に現れる迫力あふれる花火とガラスに響く爆音、また、きれいな色電球をつけた遊覧船の演出には長旅も忘れてしまう。すべて花火が終り、いろいろな雑談で9時30分頃就寝する。

朝は外の明かりがもれる頃が目がさめ、午前4時30分、清々しい気分が爽快である。

朝食はバイキング。メニューの豊富さに目が輝く。

午前9時30分より分科会は腎友会会員が同ホテル2階の大広間で、浦信行先生より腎臓病の講義を受ける。(2時間30分)終ると同時に昼食にする。

昼食後バスにて(午後1時)出

発。帰路帯広へと走る。途中メロンをお土産品として買い求め、車中のゲームを4、5回しながら景品を渡す。少し休んで、木村会長司会で個人の透析開始の様子の実験談の発表をする。11名の会員が発表した。当時の苦労話に大拍手。同じ病気で苦しむ患者同志の実感あふれる言葉に感動しました。現在は、機械が良くなってまだまだ長く生きる喜びがわき、本当

釧路フロック

全道の皆さん、

「多和平」へ来てみませんか

釧路地方腎友会

全道各地の会員の皆さん、お元気で過ごすごですか。釧路地方腎友会の会員も皆元気でこの夏を過ごしております。

釧路地方腎友会では、毎年日帰りレクを実施しておりますが、今年は、道東の牧歌的気分をたっぷり味わいました。

そこで、その時の様子などを紹

に皆様の体験談で楽しく帯広に到着するのが早かった。帯広には午後8時に到着する。

全員が一つの目的に成功した感激に万感胸がつまる。

何より全員が無事帰宅出来た事を感謝申し上げたい。本当に御協力下さいまして有難うございました。

皆様の長旅に御苦労様と申し上げます。たくお礼申し上げます。

(報告・佐藤武夫)

介したいと思えます。

来たる7月14日(日)朝8時半林田クリニック出発、市立病院経由で一路、標茶町多和平牧場めざして出かけていきました。残念ながら参加者は28名と、若干少なかつたのですが、和気あいあいのなかで楽しい一日となりました。

行くバスのなかではゲームなど

を行いながら楽しい雰囲気現地へ向かいました。

途中、標茶町内を流れる釧路川では、ニュースでも紹介されたコイノボリが川幅いっぱい吊るしてありました。とても壮観でした。

10時頃、多和平の入口に着き、調子のよくない人数以外、ほとんどの人が一キロ足らずのなだらかな坂道を歩いて展望台をめざしました。

展望台の焼肉コーナーでは、全員着くか着かないうちに、さっそくスミの火おこし作業が始まりました。



した。展望台からは、360度見渡せましたが、あいにくの雲り空のため遠くの間々までは見えませんでした。

それでも、まわりの草原には牛や羊が放牧されていて、牧歌的雰囲気を感じることができました。

11時を少し回った頃、肉の準備がととのい、少し早い昼食パーティとなりました。プレートの上にはジンギスカン、タマネギ、ピーマン、焼き鳥、ジャガイモ、トウキ、うどん、焼きソバ、etcがあふれ、参加者の胃袋に運ばれました。

おなか一杯食べ終わった頃、全員で記念撮影をし、温泉へ向かいました。

ここで全道の皆さんに、この多和平の特徴を紹介いたします。この「多和平」というところは、釧路管内の標茶町にあり、釧路から車で1時間くらいで行ける所にあります。もともとは牧場なので、あたりは牛や羊がたくさん放牧されています。中標津町の開陽台は有名ですが、その景観に勝るとも劣らない素晴らしい景色が楽しめます。晴れた日には、知床連峰や

阿寒岳、摩周岳などが見られます。360度地平線が続いているのが一望できるところです。

展望台のところに水道は、摩周岳の伏流水を湧き口から直接引いてきた水で、葉などは一切は引いていないし、適度に冷たくて、なかなかおいしい味がします。

さて、日帰りハイキングの一行は、1時に子宝温泉に到着し、さっそく汗を流して温泉へザブーン。増えた水分をいくらか落として、帰路のバスの中。バスのなかでは、ビンゴゲームをして又々景品をもらいました。

釧路に到着が午後5時半。一人のケガ人も具合の悪い人もなく解散となりました。雨も降らないで無事終えることができました。

こうして、今年の釧路地方腎友会日帰りハイキングに参加した人はすばらしい景色を見ることができました。全道各地の皆さんも、是非一度、この「多和平」に来てみませんか。そして、牛たちに囲まれながら焼肉を食べてみては。

以上報告おわり

(報告：釧路地方腎友会事務局)

北見ブロック

北見ブロック親睦会

北見地方腎友会

去る7月28日に、北見腎友会の親睦会が催されました。腎友会に入って初めて参加された方も多く、家族も含めて53名の参加がありました。

当日は、生憎の曇り空で、雨にこそあいませんでしたが、お日様

の顔を見ることのない肌寒い一日でした。「寒いですねエ」という言葉で始まりましたが、朝の2時半より準備して下さった、会長さんと御家族の方々の自慢のホルモン鍋が野菜もたっぷり入って、体を内から暖めてくれました。

持参のおにぎりを頬張り、次々と焼けてくる肉類、魚貝類におしやべりを交え、手の掌に入る小さな缶ビール、ジュースをちよつぱりドキドキさせながらも美味しく頂きました。

飲んだり、食べたりの後は、腹ごなしの為に、輪投げゲームを行いました。このゲームは、お年寄りから子どもまで皆が楽しめます。また簡単そうに見えて、なかなか思うようなところに入りません。声援を受けながら、点数の高い所に入れば拍手がわき、枠外の草の上に着ると、ため息が出て皆の



視線が輪投げゲームに集中されま
す。

全員がゲームを終えた後は、ス
イカのデザートです。暑い日なら
ば出ない汗を無理にでも出して冷
えたところを一口ガブツとかぶり
つくところですが、この日は残念
ながらそうはいきません。それで
も甘いスイカに一切れ、二切れと
手が伸びます。

そして、スイカを食べ終えた頃
丁度、閉会の時間がきました。

明日から、また、透析人生を頑
張りましょうと、力強い万歳で、
この親睦会を終えました。

北見市内には、3ヶ所の透析の
病院がありますが、同じ病院でも
曜日が異なると顔を合わすことな
ど、ほとんどありません。まして
病院が異なると全くと言っていい
程、交流がありません。ですから、
こうした親睦会で互いに親睦を深
め、互いの苦しみ、悩み、そして
それらの乗り越える方法等自分の
透析人生に少しでもプラスになる
ような交流を持つことが出来れば、
尚一層楽しく意義のあるものにな
るのではと思います。また、来年
も制限の毎日の中の日を、少し

でも楽しく過ごすことが出来るよ
うに皆で頑張りたと思います。

また、多くの御家族の方々の御

網走ブロック

「日帰り旅行」

オホーツク腎友会

協力、ありがとうございます。

(報告・佐藤)

7月21日、日曜日、今日は年に
一度の日帰り旅行です。行き先は
留辺蘂町立「山の水族館・郷土館」
です。朝9時に石田医院前に集合
しました。参加者は、男性2名、
女性6名の8名でした。

1台のワゴン車に乗り合せて、
9時15分頃出発しました。車中で
は色々な話をしながら楽しく目的
地に向かいました。途中、北見市
あたりで雨が降りましたので、少々
心配しましたが、温根湯温泉は晴
れていて、とても暑く、アイスク
リームが食べたいと思いました。「山
の水族館・郷土館」には11時頃到
着しました。すぐ館内に入り、北
海道内に生息する「淡水魚」25種
2,500尾を見学しました。

幻の魚「イトウ」は1m50cm位

の体長が有り、長さ10mの水槽の
中で沢山の群れで泳いでいました。
「オシヨロコマ」「アメマス」「ニ
ジマス」「ヤマメ」等々、なかなか
日常お目にかかる事の出来ない魚
ばかりで、子供の頃「川や沼」で
魚釣りをした頃を思い出しました。

郷土館の中では、全長18mの「ス
クリーン」に、自然、産業、文化
を映写して有り、全長25mの「大
パノラマ」には、開拓時代の状況
を再現し、水(川)が流れ、機関
車が走り、その他、馬、熊、タヌ
キ、北キツネ、ウサギ、リス等々、
沢山の種類の動物のはく製、樹木、
生活用品、農耕具等が展示して有
りました。私達の体験した事のな
い生活用品を見ていると、昔の人
達の苦労がしのばれました。

(報告・佐々木保子)

「温泉水族館」の中には、外国
の「温帯魚」「ピラニア」等、25種
500尾が展示して有りました。
始めて見る魚達は、とても「カラ
フル」できれいでした。又、北海
道をかたちどった「オーブン水槽」
には、大きなカメ、川エビ、金魚
等が手に触れる事が出来る様になっ
ていました。皆さんでゆつくりと
見学した後は、記念写真を撮りま
した。すぐ近くに「北キツネ牧場」
が有り、そこには大きな売店が有
りました。すぐに「ソフトクリー
ム」を買って皆さんで食べました。
お土産を色々見てから食事をし
ました。体重が気になり全員で「チャー
ハン」を頂きました。食後ゆつ
りと休んでから、又、売店で買い
物をして網走に向けて出発しまし
た。今回は「のんびり」と時間に
余裕を持って出かけたので、
あまり疲れませんでした。石田医
院前に、15時頃到着して解散しま
した。今度は秋になったら紅葉を
見に行きましようと言いながら帰
宅しました。参加人員は少なかつ
たのですが、とても楽しいひと時
を過ごしました。

千歳ブロック

交流会開催

千歳腎友会

今年も、5月18、19日と恒例の少し遅い花見会を、洞爺サンパレスにて患者、家族、スタッフ合わせて42名で1泊の旅行を行いました。

値段の割に食事の質はそれほど良い物ではなかったのですが、み



んなでカラオケを大いに歌い、大いに食べ、大いに飲んで(?) 楽しい一時を過ごしました。

次の日は、まっすぐ帰らずに有珠の善光寺に寄り、八重桜を見て、最中を買い、帰路に着きました。

なに事もなく、楽しい2日間でした。

また今年も、植樹祭を去る6月2日に紅葉台山荘にてサクラとサクラランボの苗を10本づつ植えました。

スタッフには、山荘の廻りのいらない樹を切り、ササなどの植える表土を剥がして黒土を盛土し、植樹用の穴まで掘ってもらい、色々お世話をかけました。

来年、再来年は、花が咲き、実の成る事を願いつつ、全員で植樹を行ない、その後は総勢50名による一大ジンギスカンパーティーで、大いに歌い、食べ、飲んで楽しい



仁木町のサクラランボ山にて行ないました。

参加人数は31名でしたので55名定員のリムジンバスの中は、ゆったりと乗ることが出来ました。

サクラランボは、そろそろ終りに近かったのですが、まだたくさん熟したサクラランボが有り、もぎたての実に甘いサクラランボを、みんな御腹いっぱいカリウムを気にしながら食べました。

又プラム狩りもする事が出来ました。

帰りには、余市のニッカの工場に寄って、ワインやウイスキーを試飲して、ホロ酔い気分帰路につきました。

(報告：江島 寛)

深川ブロック

春の小旅行

深川腎友会

深川腎友会が結成されて3年目を迎えています。

私達の会では、会員相互と医療スタッフそして家族との親睦を計

るため、年に春と秋の小旅行と忘年会を実施しています。

今年の春の小旅行は旭川の高砂温泉に行きました。

先生2人と看護婦さん、スタッフの方を始め会員を合せて総勢30名、高砂温泉よりの迎えのバスに乗り、市立病院前を午前9時に出発しました。

バスの中では、あちこちと雑談が始まり笑い声が聞こえて参加者は皆楽しそうでした。

約40分ほどで目的地の温泉に到着しました。早速、正面玄関前で記念写真を撮りました。

部屋に入り2時間の自由時間を、風呂に入る者、先生達と卓球をする者、ゲームを楽しむ者等、各自



それぞれに楽しまれた様子でした。やがて会食の時間に入り、今井会長さんの挨拶につづいて先生の挨拶をいただきました。

何時もなら簡単な挨拶で終わりますが、その日は先生から予期もしなかつたお話を聞いて、みんなびつくり致しました。

市立病院の透折開設以来から大変お世話になった看護婦さんの田中さんが、結婚のため職場を退職する事になったのです。

会場から一斉にお祝いの拍手が起こりましたが、一抹の淋しさが胸にこみ上げて参りました。

お祝いの乾杯の後、あちこちの席からお別れの淋しさの聲が聞こえてきました。何時もならカラオケなど飛び出すところですが、その日は田中さんを囲んで今日までの思い出話に花が咲いて、あつと言う間に帰りの時間になってしまいました。

午後4時、市立病院前にバスが到着し、会員の皆さんの幸せを心より祈り散会致しました。

私達は旅行や忘年会を通して、先生や看護婦さん、スタッフの方と普段の質問しなかった事、お話

しをしたかった事などについてお聞きしたり、全く透折の事を忘れた楽しい話などをして、お互いの親睦と信頼を深めております。

又、署名や募金の協力のほかに、新規の会員増員のため会員に加入する事の大切さを説いていただき、大変御協力をしていただいております。

私達は良い環境と大変素晴らし先生や看護婦さんスタッフの方

旭川ブロック

友の会定期総会開催

旭川地方腎友会

旭川ブロック内の増田クリニック友の会の平成3年度定期総会が、6月23日(日曜日)に午前11時30分から午後3時30分まで、高砂温泉(旭川市高砂台8丁目)で開催されましたので、その結果を報告します。

友の会会員23名出席

定期総会には6月1日現在の会員数47名のうち、本人出席23名、委任状出席13名の合計36名の会員

に恵まれ、全道そして全国一と自負しております。

先生始め看護婦さんスタッフの方々、本当に有難うございます。

最後に全道の仲間のみなさんの御健康を祈ります。共に頑張りましょう。

とりとめ無い事をお書き致しましたが、乱文乍ら失礼致します。

(報告・鈴木春美)

の出席があり、友の会規約第12条第2項(総会は会員の2分の1以上の出席で成立し、その過半数で議決する。)により定期総会は成立しました。

定期総会議決事項

定期総会は日程表のとおりに議事が進められ、安江事務局の開会の挨拶の後、推薦により遊佐永恭さんを議長に選出し議事に入りました。

続いて、井尾守男会長から一年間の経過と総括を含め、患者会のあり方、私たち透析患者を取りまく最近の情勢等について挨拶がありました。

会長挨拶のあと議事に入り、事務局から平成2年度事業報告及び決算報告、会計監査の山名進さんから会計監査報告がなされ、いずれも異議なく拍手で承認されました。

続いて、事務局から平成3年度事業計画及び予算案の提案がなされ、会費の値上げをしてはどうか、



また、友の会が主体となつての一泊の旅行会の計画をしてはどうかなどの意見が出されましたが、事務局提案どおり可決されました。議事のなかで、患者・会員の要望について友の会として全体の意見をまとめて申し入れをしてはどうかという提案があり、新役員で検討していくことになりました。

《役員選出》

総会議事の最後に平成3年度の役員を選出しました。役員選出では会計を除く現役員の留任が賛成多数で決定し、綿貫さんが逝去さ

れ欠員となっていました副会長に新しく渡辺進さんが選出されました。

長田重子会計幹事の後任には清水栄子さんが選出されました。

平成3年度友の会役員

- 会 長 井尾 守男(再任)
- 副会長 渡辺 進(新任)
- 事務局 安江 良和(再任)
- 会計幹事 清水 栄子(新任)

○会計監査 山名 進(再任)

《懇親会開催》

定期総会終了後懇親会を開催しました。幕の内弁当の昼食や会員が持参しました我が家の自慢の珍味・好物を食べながら歓談し親睦を深めました。

昼食後はお風呂のデパート高砂温泉のいろいろなお風呂に入浴して心地よい汗を流しました。

(報告・井尾守男)

広報員通信

かざ 風 花 の 如 く

片桐俊子(札幌)



人の命は、はかない。風花の如く、消えていく。

透析仲間のYさんが、8月5日、急逝した。とても元気な人だっただけに、その知らせは、やにわに信じ難かった。いつもと変わらぬ、いい顔で笑っている遺影を見ると、胸がつまって涙があふれた。明日は我が身かと思うと、悲しみは、さらに深まった。

昭和57年、私が病気で休職した

時、代わりに教壇に立つてくれたのは友人のN子だった。彼女とは中学・高校・大学と、ずっと同じ学校で、就職してからも友情は続いた。彼女はフアイトの固まりのような人だった。アメリカに一年間留学し、語学力に磨きをかけ、華道をたしなみ、中国語も勉強していた。網走南ヶ丘高校に赴任して、2年目の夏、フイリピン旅行がもとで肝炎となり、あつげなく、この世を去った。私の何倍も長生きしそうな元氣ぶりだったのに……今年の8月27日、彼女の7回忌である。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖(すまい)と、またかくのごとし。」「方丈記」の有名な冒頭である。川の流れは絶えることなく、いつも流れ続けている。その水は、すでにもとの流れではない。淀みに浮かんでいる水の泡も、こちらで消えたかと思うと、あちらで浮いていて、決してもとのままではない。世の中の人や、その住居にしても、

まったくこれと同じだ。朝、死ぬ人があるかと思えば、夕方生まれる子もいる。水の泡とよく似ている。人の命は、いつも死と背中あわせ。まして透析をしている私にとつて、いつ何が起ころうとも不思議はない。日々の生活の中で、いつも、そう考えている訳ではない。身近な人の死が私をそういう思いにさせた。限られた命の中で本能のまま流されて、さらに命を縮めるか、自分を律して、生活の質を向上させるか、道は2つに分かれる。自

己管理(食事・水)がいかに大切か、あらためて痛感した。自分の口になさけをかけすぎると、そのつけは必ず自分にまわってくる。生きている意味は何かと問う人がいるが、私にとって生きることの意味がある。今、この時を精一杯生きていたい。それは、はいはいする、よちよち歩きする赤ん坊の無心に似ているかもしれない。風花の如き、はかない命なら、命あるうち明るく前向きに生きていきたい。

稀少難病と闘う 患者達の記録を読んで

西内則子(小樽)

者の3割は遺伝によるもので絶対に伝染はしないが、治療方法は手術で皮膚に出たものを取り除くしかなく、一旦発病した患者は、着実にその症状は進行し、その外見に極めて大きな心理的負担を患者に負わせているにもかかわらず、致命度が低いこと、長い年月を経て進行するがその間、日常生活への身体的障害が少ないことなどにより、研究にほとんど手が付けられておらず、又、その風貌ゆえに穢らわしきものの如く世間の好奇の視線にさらされ、近づけばまるで逃げるかのようにだれもが離れてゆき親、兄弟もその例外ではなく働こうとしても就職口がみつからず極度の貧困に落ち入り、患者は孤独と絶望の中で死ぬことも出来ず生きつづけている現状である。この記録は語っています。

夏のある日、私は一冊の本に出逢いました。それは、透析中に読もうと思つて腎友会文庫から借り出した、稀少難病と闘う患者達の記録「明日香ちゃん美しく」(高橋幸春著)でした。そこで、私は初めてレックリングハウゼン病という病名をしりました。百数十年前

に発見したドイツ人医師の名前が病名となつたこの病氣は、日本医学名では神経線維症と呼ばれ、手、顔、首、胴と所かまわず大小の数えきれない肉粒、肉塊が多発し、特有な色素斑を呈するもので発生率は三千人から五千人に一人の割合で、原因は遺伝と突然変異で患

この本の題名である山口明日香ちゃんは、生まれた時すでにレックリングハウゼン病の症状が現われていたそうです。腹部に一つ、左足に二つ小さなしみを見つけたお母さんは、一日と明日香ちゃんお母さんの体にしみが増えていくの不安をおぼえ、大病院の皮膚科で

診察を受けてはじめてレックリングハウゼン病と知らされます。難病です。根本的な治療方法は解明されていません。今の所、しみだけですが成長すると共に進行し、思春期になると腫瘍になって現われてくるものが多くあります。」という医師の言葉に自分の耳を疑い、絶望のどん底につき落とされ、一時は自殺さえ考えたという気持ちだが、この本に書かれた記録や手記を読むと本当に痛いほどよく判ります。

しかし、明日香ちゃんのお二人は、悩みに悩んだ末、この難病を直視し、親子で力を合わせ、これから立ちはだかるさまざまな問題や壁を乗り越えて生きて行こうと決意するので。稀少難病者の会である「あせび会」の存在を知り、そこで、多くの患者が、あるいはこの病気にとりつかれてしまった子供をもつ親達が悩み苦しんでいる事、レックリングハウゼン病のために結婚もできず一人寂しく人生を送ってきた人、就職口もなく貧困に喘ぐ人、病気のために離婚させられた女性、現実には想像していた以上に悲惨なものだと知ります。

「あせび会」には様々な難病の患者が集まっています。弱いながらも力を結集し、一日でも早く治療法が解明されるようにと運動を進めています。「明日香が病気のことで悩み苦しんでも、何もしてやることはできない。親としてやるべきことは、病気に屈することなくそれ乗り越えて強く生きてゆけるように、明日香を強い人間に育てること。」と考える明日香ちゃんのお母さんは、子供だけに強さを求めるのではなく、自分自身も強くなろうと「あせび会」の活動や地域のボランティア活動にも積極的に参加し、その時明日香ちゃんを連れて行きます。「世の中には様々な人がいることを、この子に知ってほしいんです。そういう人達が助け合い、協力し合って生きていくのが社会なんだということ、いろいろなハンディを背負った人が精一杯生きているんだということ」を明日香が忘れないでいてくれるなら、この病気の恐ろしさを知った時、悩み苦しんでもきつと壁を乗り越えていってくれると思うのです。」と明日香ちゃん一家は、この恐ろしい病気に屈することなく

必死に生きています。

全難連が昭和47年に産声をあげてから5年後、患者会もない未組織の稀少難病患者の会「あせび会」が昭和52年に結成され、80数疾患という様々な病気の人の集まりとなり、その中の一つであるレックリングハウゼン病で悩む人達が力を結集し、行政を動かすことが出来たのは昭和57年、厚生省は「神経皮膚症候群」と「混合性結合組織病」の2調査研究班を設け原因究明や治療法の確立を目ざすと発

50の手習

渡辺喜久(釧路)

表、あまりにも遅すぎるが、治療方法解明の第一歩が踏み出されてから、今現在、8年が過ぎようとしています。研究はどれだけ前進しているのでしょうか。そして5歳だった明日香ちゃん、多感な思春期を迎えている頃、御両親の愛情に包まれ病気をのり越え強く生きていく事と信じていますが、一日も早く治療方法が解明されることを、せめて病気の進行だけでも止める薬が開発されることを心から祈らずにはられません。

戦後の大変な時代に小学生だった私は、学校へ行くだけでも大変な時で教科書も満足な物ではありませんでした。そんな時代ですの

の場も出来始めました。娘達は洋裁、和裁、編物と…私もいちおう娘でしたのでそれらを習いに行きました。

で塾とか習い事など、とんでもないそれに、そのような所はなかったように思います。

今までに習い事をしたなーと思いついたら透析をしていたと言ったと仕事事に追い廻されて気が

中学を卒業する頃になって世の中も急激に変わりました。その頃からはいろいろの習い事

感じ透析も始めの頃は体調も悪く入・退院のくり返しの日々が続い

ていましたが、2年位過ぎた頃から良くなり、その頃体操のサークルに入り運動したのが良かったのか何か習い事をしたいなーと思う気分になりました。

それで何を習いに行こうか考えていた時、妹の子達が習字を習いに行き始めたのを見て「よしこれだ」と思い姪にくっついて先生の所へ行きました。先生は「大人は教えたくない」と言っているのを無視して強引に生徒にしていたきました。

家にばかり居ると緊張すること



がないので「級などには挑戦しなくてもいいんです」と、云ったので先生は他の人の買った手本をかしてくれました(図々しいね)そんな話を友達にすると級に挑戦した方がはりあいも出るし、ただ書いてるよりいいと思うよと言われたんだんその気になった頃先生からも言われ習い物の年度変わりの4月から手本を買い(日本習字)63年から生まれ始めて級に挑戦です。

一ヶ月に行書と楷書2枚送ると一ヶ月後に、級と悪い所をなおされて戻ってきます。始めて出したのが5月に戻って来ました私が行くのを待ちかねていたように先生が「渡部さん上がって来ましたよこんな一気に上がる人はあまりいないですよ」と言われ見ると「特進6級」と書かれています。

先生が普通は10級から始まるんですよと言って喜んで下さいました。

「特進」なんと良い言葉ではありませんか。私も内心やったやったと子供達がやっているようにガッツポーズを…まい上がった気分の

良い一日でした。

それから階段を上がるように1級1級と出す事に上がっていったのですが、2級位からばったり上がるのが止まってしまい文字を書くむずかしさが判りかけて来ました。

それでもよくばって「かな」も習い始め一ヶ月に3枚出すのは大変ですが又はりあいもあります。同じ級を半年も持ち続け上がったときは「やった」の一言です。でも今年の3月で日本習字の手本をやめました。

何級までいったかって…行書と楷書は2段、かなは2級でした。4月からは手本を変えて「全書芸」これは出したのは戻ってこず本の後の方に級と名前がのります。前の手本とは字の質がまったく違い今度は10級から一步一歩挑戦しています。

習字を始めた時、家のかべにはいつも自分でながめていました。4月に手本を変えて始めて書いたのはおいたら、娘が「これ母さん書いたの」そうよと言うと「へんな字」という。3年ほど日本習字の字を見なれていたので、

字質の違いが娘にも判ったようだが娘も見えていないようでした。見えていたかと思つた。

それから私には始めた時から小さなライバルがいた。甥と姪、甥は私より一年前から、姪は同じ年から習いだしたので姪は「おばさんに負けた」とか、甥は習いに来てもあくびばかりしていて、ちつとも身がはいらず私は「おばさんに追い越されるわよ」と脅迫したり楽しい日々です。

ある時、私が塾へ行くと、始めての男の子が来ていた。その子は変な叔母さんが何しに来たのかジト私を見ていた、私はいつもの場所に座って習字の道具をだし始めると、男の子「習字、習いに来たの」私「そう叔母さんも僕達と同じ生徒なの」男の子「どひゃー」とこけてくれた、実にかわいいじゃありませんか、この歳になって同塾生が子供達ばかりとはね、それに私の顔覚えてくれて外で逢つてもニコッと笑ってあいさつしてくれます。オパタリアンはうれしい。

透析ツアー―北陸の旅

金丸洋子(札幌)

「どうじん」を見て、今年もと我先に予約した所、時期が来ても音沙汰無し、風の便りには60名の参加者とか、景気の良過ぎたのがいけません。何と行き先のある県腎協に断われた様子。内情はわからぬが少々寂しい思い。でも、



流石我が道腎協、福井県腎協に掛け合い漸くの思いで実現へと事を運んでくれた。日通旅行も我々もお互い大きな見込み違いで、60名が20名となり、私も中止を諦めの意志を急きよ変更、突然の出発となった。6月20日から23日迄と梅

雨の最中に等と、不満もあつたものの、出発と同時にそれは旅は楽し不平不満零、至福の至りとなる。

仁愛会の中崎さんとこのツアーには毎年の参加を約束。只々資金が必要な所。普段の節約を徹底し、20万前後の費用を念出している。まるで遊ぶ為に働くという感もあるが、日頃の炊雑さを忘れる最良手段と思う。幸い主婦業故透析を職業として過ごせる身が強みである。

この旅に参加の大半の方は、好感度が高く年毎に常連が増え、道内中の方に近づける良い機会である。旅の内容は観光地巡り、ホテルは上級又は最上級、食事も美味豊富で選んで食べても不足を覚えな。透析病院はどこも見事な歓迎振りで安心感一杯、お客様になつて透析するのも不思議な魅力。特

に今回は時間に余裕があり、チェックイン5時、チェックアウト9時の日あり、疲れを恐れず温泉の良さをゆつくり楽しんだ。又日中自由時間が少ないので夕食後の数時間も旅の楽しさを左右するキーポイント。例年9時就寝の私共も今年

は人員不足を補う為、毎夜動員され頑張つて遊んだ楽しかった旅は堅実なプランの結果と思う欲張りなプランは夢はふくらむが強行軍になり疲れを増すだけ。

日通旅行さんには、今年にこりずに5回目の充実したプランに期待したい。お得意様の道腎協会員の為に、あまりかけひきをせず誠意を持ってよろしくお願ひしたい所である、そして道腎協のおしみにない協力をますます多くの会員に喜ばれる、組織作りの実行に期待したい。《思うがままに》

北陸旅行

八巻千敏(苫小牧)

今回の北陸旅行は、昨年の四国旅行に次いで2回目の旅行で、ス

ケジュール表が送られてくるのを指折数えて待つていました。



ありました懐かしい顔振れの名前が参加者名簿にありました。併し、一寸少ないのは当初の計画が取り止めとなった為かもしれないと思いつながら残念な思いでした。出発日、千歳空港に皆さんの元気な姿を見出した時は「皆さん元気で本当に良かった」とつくづく思い、今回の旅行もきつと楽しいものになるだろうと予感したところでした。

3泊4日の旅行で特に印象に残ったのは、羽咋市千里浜から押水町今浜までの8kmに亘る天然のドラ

イブウエイ、これは細かい砂が適度に海水を含んで締つたものだから、重量のあるバスでも楽々走ることが出来る。キラキラ輝やく波打際ぎりぎりにはしつたり、センターラインも無いので対向車も右へ行つたり左へ行つたり蛇行したりして自由に走つて来るのが見え、本当に楽しいドライブウエイだ。

途中何箇所も小川が海に流れ込んでいるが、水深が浅く、凹凸の少ない所を選んで車が渡る。

海沿いには焼ハマグリ、焼サザエなどを売っている小屋が並んで居り、夏は海水浴客で大いに賑わうとのことであり、この時は車道の区画が設定されるそうである。こんな珍しいドライブウエイは全国でここだけ、夕映えの渚を潮騒い聞きながらのんびり走つてみたい、おそらく気分は最高であろう。

今回の旅行を通じて云えることは、何箇所も走り回らないで、じっくり見る時間が欲しかった所もあった。例えば、能登金剛と云われる福浦港から巖門を中心とした一帯の海岸線を船上から見たかつたし、金沢市内もゆっくり散策し

たかった。来年は何処に行くのか：今から楽しみにしていますが、また皆さ

私の半生記

③

佐藤道美(室蘭)

んの元気な姿にもお目にかかりたいと思つて居ります。

うか、随分と荒っぽい聞きずらいことばでした、しかし不思議なものですぐにその言葉に慣れて自分でも荒っぽい聞きずらい言葉を使っています。

何処にでもいる転校生いじめが趣味としか思えないのが、ここにもいました、同じ炭鉱の子です取っ組み合いヒツカキ合い一生懸命張りました、ついに周りを囲んだで見ていた仲間が引き分けてくれ握手、これで一件落着対等の仲間になれたわけです。

海が近いので此処では海に関する思い出が沢山あります。

おどろいたのは鯨魚を見た時です、今ではとても見る事が出来ませんが、岸からほんの、僅かしか沖に出ていない所に網を張つてあります、手漕ぎのてんま舟が何隻



姉の家に着いてからしばらくはそのまま一緒に暮らさせて貰っていました。

義兄は戦死しているので姉は働いています、2人の男の子も新聞配達をして家計を助けています。

父も社宅を借りることが出来近所ですが男4人が住むことになりました、しかし近所に居ると言うことで随分と苦労をかけた。

小学校でも6年生は泊まで通います、炭鉱の子と漁師の子が多い学校です。浜語と言うのでしょ

か漕ぎだして網を上げ始めます。
網が上がってくると海が鯨の白
子で真っ白になるのです。

数の子が網にへばり付くので棒
で網を叩きながらでないで網の目
が詰まって上がらなくなるからで
す、網が上がり鯨が浜に運ばれて
来ます、みるみるうちに鯨の山が
出来て行き物凄い活気です。

私たち炭鉱の悪童たちは待つて
いましたとばかり、手頃の竹に大
きな釣針をつけたのでこれはまだ
生きているとか、これは大きいと
か適当な事を言いながらヒョイヒョ
イと手籠の中に入れていきます、
浜のひとたちも籠一杯位はだまっ
て見逃してくれたものでした、本
当にあんなに取れていた鯨はどこ
へいったのでしょうか。

夏休みには毎日のように泳ぎに
いきました、先輩が海に潜ってウ
ニや鮑を取ります、その行くとこ
ろ行くところへ籠を持って何処ま
でも泳いでついていきます。

浜に上がって来るとそこから分
前を貰うのです。

釣にいったある日イワシの大群
が浅瀬に乗り上げ手掴みでずいぶ
んどりました、普段はツブの餌な

のですがそのイワシを餌にしたと
ころ大きなソイが2匹も釣れたこ
とがありました。

意気揚々と家に帰りました、ず
いぶん大きなのが釣れたなど父が
料理してくれました、本当に大き
かったのですよ。

イカ漁が最盛期の頃のことです。
イカ漁は沢山の大きな灯りをつ
けて夜の間にいきます、丁度学校へ
行く時間には荷上げも終わって浜
一杯に張りめぐらされた、イカ干し
用の縄にイカ干しが始まっています。

大漁のためにきつと猫の手も借
りたい程忙しかつたのでしよう、
炭鉱の子が5、6人で通りかかる
と、あんちゃん達イカ干しを手伝っ
ていかないかい帰りには沢山イカ
をやつからさ、なんて言われて学
校靴をおっぽり出して学校の終わ
る時間までイカ干しを手伝ったこ
ともありました。

帰りには浜のおばさんが言った
とおり沢山のイカを貰いました、
会社から帰った父はこんなにイカ
をどうしたんだと聞きます、いや
一寸イカ干しを手伝ったら呉れた
んだと答え、勿論学校をサボッテ
1日中やっていたなんておくびに

も出しません。

類は友を呼ぶの諺のとおり、昼
間に大人の居ない家は似たような
者の溜まり場になります、私のよ
うな悪童が学校をサボッテ集まる
ようになりました。

家の中で相撲をするは、空中回
転の練習はするはでわやわやです。
ある時に食べる会をしようと言う
事になり各人がそれぞれ材料を持
ち寄り、ライスカレー（当時はそ
う言いました）を作りました。

悪童どものやることです、立派
な物が出来るはずがありません。
やつと出来上がった頃にまだ卵
が残っているぞと言います、貴重
な卵です、どうしようか、ええい
一緒にカレーに入れてしまえ、と
いったような調子です。

何ともいえない味の物が出来あ
がります、腹の減って居るときは
どんなものでも美味しいのです。

学校を休んでこのような事を続
けているのですから、当然問題
になります、担任の畑中先生が父
の居ない時に訪ねてきてくれまし
た、チエツいやなのが出来やがった
などその時は思いました。

しかし先生は非難めいた事や説

教らしい事は一言も言いませんで
した。ただ家庭のことや学校を休
んでどんな事をしているんだとか
今学校ではこんな事を勉強してい
るとか、色々聞いてくれたり話し
てくれたりして帰りました。

その次の日から真面目に学校に
いくようになり、先生はその後も
私を注意深く見守ってくれていた
ようです。

先生には3年後偶然に室蘭の当
時の海水浴場、陣屋の駅で生徒を
引率してこられていたので、お会
いすることが出来ました。短い時
間でしたが、これこれしかじかと
その後の顛末を話し、今は企業の
学校へ行き奨学金を貰って勉強し
ていることを知ると本当に喜んで
くれました。

話しは前後しますが母のお骨が
そのままになっているので歌志内
の墓に納めることになり父と2人
でいきました。きつとお盆だった
のでしよう非常に暑い日でした、
蟬がミン、ミンうるさい位に
泣いていました。

墓の前で坊さんのお経も終わり
坊さんが戻り、父と2人で墓の後
に穴をほりお骨を納める時どうし

たことか父は骨箱の蓋を開け、その中から一片の骨を出しコリコリと食べたのです。

ゾーと背筋が寒くなりました。ああ父が変になった、気が狂ったとおもいました。父は何事もなかったように蓋を元どおりにして穴の中に納めました。

その時の父の気持ちはその後ずいぶん経ってから私にも分かるようになりました。

どんな仕事もそうですが特に炭鉱の坑内の仕事は大変だったようです。地下何百m何千mの中に入ると真っ暗闇の中でキャップライトだけを頼りに落盤やガスに注意しながら、1日中石炭を掘り続けるのですから、そのような過酷な仕事のせいか何処の炭鉱にも通称タコと呼ばれる人たちがいたようです。芽沼にもいました。

炭鉱の方から3、4人が腰縄に繋がれて社宅の方に降りてきました。魚屋さんの前で止まりました。縄を持った人たちに何か言われています。店の前に並べてあるイカを買ったようです。青白い顔をしたその人たちはイカを手にとると身の部分と足を引っ張って分け

ると、本当にアツと言う間に呑みこむように身の所は勿論足も油の所も全部食べてしまいました。

たまたま一緒にそれを見ていた姉はタコと呼ばれるその人たちの事を教えてくれました。人は真面目に働いていないとこのようになるんだと言われたのが、哀れなそ

透析9年のあゆみ

斉藤 洋子(十勝)

私は昭和57年5月から、透析に入り、平成3年の5月で満9年になりました。

1、2年は、まだ腎臓の働きは少しはありましたが、血管が細い為、看護婦さん泣かせをしました。血圧も高く、透析中よくもどして居りました。とにかく貧血で、病院から帰宅しても、ただ寝てばかり、食事の仕度は、私の母がしてくれましたので、何とか生活して

いましたが、夫の仕事の事から、家庭がバラバラになり、離婚になってしまいました。

昭和59年3月長男が、定時制高

校卒業の時でしたので、すぐ自衛隊に入りましたので、次男を連れて、現在の借家に引越しました。

昭和62年3月次男が公立高校に失敗して、私立に入れないので、いろいろ考えていたら、柔道部の先生が「内地で良い所があるから」と紹介して下さいましたので、本人も喜んで、神奈川県川崎市の大橋製麺ラーメンの麺作りで、会社は神奈川県5本の指に入る所でした。社長宅に住込ですが、食事や洗たくはして下さいますので、本当に有難く感謝して居りました。

次男が私にこんな事を言いました。「お母さん、僕が満20歳になる迄は絶対に生きてね。」と心配顔で私に頼みました。

私はただうなずいて、おもわず涙がこぼれました。

今年の3月次男が川崎に行つて4年間、仕事と勉強を見事に頑張りました。通信高校を卒業しました。社長さんから「親孝行したなあ、これでお母さんも安心できるね」と、誉めて頂きました。社長さんや奥様そして従業員の皆様のお陰であることを、息子と十分話し合い、感謝の気持ちをいつ迄も



忘れぬ様。

今年の10月で次男が満20歳になります、生きて本場に良かった。長男は自衛隊をやめて、今私の近くに住んでいます。私に何かあつ

たら困るので心配してくれませう。

もうすぐ透析歴10年になります。病院の先生や看護婦さんの助けをいただいで明日に向かって一生懸命あゆんで行きます。

全道集會に参加して

小西 義光・絹子(十勝)

長年役場に勤務しておりました。定年をまじかにして糖尿病から腎不全と診断され昭和62年8月に、すとう泌尿器科病院に人工透析患

者として入院、治療始めました。入退院の繰返し車椅子を使い始めて2年少々自宅から病院まで乗用車で約40分の道程があります。私



が住んでいる地域は雨が降ると量が多く、雪が降っても積もり方がひどく透析は週3回やすむことが出来ず頑張つて病院へと通院しております。

車椅子になってからは運動せず自宅にこもりがち。今回難病連全道集會が洞爺湖で開催される連絡をもらったが自分は行く気が無く他人様の如くに思っておりましたところが木村幸雄会長から「何時も家には体が段々と弱つてくるから思い切り旅に出て奇麗な空気に触れることが大事である。車椅子で自由がきかない不便を会員全員で協力するから安心して参加するよう」と言われました。家内と話し合い参加を決意しました。7月27日(土)朝9時出発この日は朝から雨が降り少々自信がもてなかったが、しかし、すとう病院から野原婦長さん、田口看護婦さん、が私たちと一緒に参加することとで安心する。日勝峠を過ぎたところで太陽が出て野山がくっきりとあらわれ、何年間も旅したことのない自分の心が晴れやかになってきた。途中みんなと一緒に食べた食事はおいしかった。洞爺湖ホテル

に着いたのが午後5時30分約8時間30分かかり到着、体の異常が無く元気に着いたこと、みんなに迷惑を欠けずに済んだのが何よりでした。夕食後は、ボランティアの人が

部屋まで来て私を車椅子で風呂場迄連れてきてくれました。風呂場に着いたら別なボランティアの4、5人が私を待っていました。私を抱え大きな湯船に入れて頂き体が温まると今度はセッケンで頭から身体中をゴシゴシと洗って頂き本当に感謝するとともに命の洗濯が出来たような実感でした。部屋まで送ってもらい夜の花火、近くで見る迫力がすばらしい。翌日は分科会に出席。昼食後1時には帯広に向かう。途中車内でのゲームその後各々各自が入院から現在に至るまでの体験談を発表してきました、色々な人の体験談の話が面白く楽しく帯広に着きました。午後8時全員が無事故で元気で帰られたことに感謝申し上げます。今回の長旅で自信が付き何所でも行く来になりました。皆様協力して頂き無事楽しく旅行出来ましたことを心からお礼を申し上げます、本当に有難うございました。

低リンミルク使用のおやつ

《アイスクリーム》

材料 (2カップ (380g) 分)

卵	1/2ケ (25g)
砂糖	45g
コーンスターチ	大きじ1/2 (3.5g)
低リンミルク L, P, K	2本 (40g)
水+湯	約 170ml
生クリーム	100ml
バニラエッセンス	少々

作り方

- ① 低リンミルクは70~80mlの水と共に低リンミルク用のカップでシェークして溶かし、200の目盛りまで湯を足す。
- ② 卵は、卵白と卵黄をよく混ぜ合わせ、ミルクを少量入れて溶きのぼし、砂糖とコーンスターチを入れて混ぜ残りのミルクを2-3度に分けて加え、裏ごす。
- ③ 弱火にかけて混ぜ、とろりとしたら火からおろし鍋底を水に浸して混ぜながら冷す。
- ④ ボールに生クリームを入れ③と同じ位とろりとした状態まで泡立てる。
- ⑤ 生クリームに③を加え、大きくまぜ、バニラエッセンスを加える。
- ⑥ 容器に流し入れ冷凍庫に1~2時間入れ、表面が固まったら全体をかきまぜ再び冷やし固める。まぜては冷やし固めることを3~4回繰り返す。

アイスクリーム(100g当)	蛋白質	エネルギー	Ca	P	Na	K
低リンミルク L P K 使用	2.9g	210 Kcal	87mg	27mg	35mg	71mg
牛乳+卵黄のみ使用	3.1	214	86	92	41	108

《カスタードプリン》

材料 (2コ (170g) 分)

卵	1コ (50g)
砂糖	15g
低リンミルク L, P, K	1本 (20g)
水+湯	約85ml
バニラエッセンス	少々
カラメルソース	
(砂糖	20g
水	20ml

作り方

- ① カラメルソースを作る。鍋に砂糖と水を入れて煮つめ、かっ色になったら火からおろし、プリンカップの底に流し入れる。
- ② 低リンミルクは、少なめの水と共に低リンミルク用のカップでシェークして溶かし、100の目盛りまで湯を足す。
- ③ 卵1コを割りほぐし、砂糖を入れてよく混ぜる。
- ④ ②のミルクを少しずつ加えて砂糖を溶かして、こし器を通し、バニラエッセンスを加える。
- ⑤ ①のプリンカップに卵液を注ぎ、蒸気のがった蒸し器で弱火で30分蒸す。

カスタードプリン(1ケ当)	蛋白質	エネルギー	Ca	P	Na	K
低リンミルク L P K 使用	4.5g	105 Kcal	70mg	58mg	46mg	70mg
牛乳(2ケ分で100ml)使用	4.5	90	60	95	55	105

※ 計算値にはカラメルソースの値は加算されていません。

事務局員退職に際して

飯村 歩



私は、5月いっぱいまで道腎協を退職いたしました。

長い間と云うべきか、短い間と云うべきか、どちらにしても、いろいろお世話になりました。

思い起こせば、前事務局局長の中村信夫さんの時から勤務を始め、現在の事務局長である堀井和彦さんへとかわった時期であり、事務局の引越し等いろいろありました。

前事務局局長の中村さんは、その当時、体調もすぐれず、入院したりすることもあり、私は事務局に入ったばかりで、不安なことが多かったように思います。そのあと、堀井さんにかわり、事務局も北35条の現在地へ移転し、心機一転という気持ちでやってきました。といっても、なかなか力不足で、皆様にご迷惑をおかけしたことと思います。

今度の新事務局員となりました田島理架子さんは、お母さんが透析患者で、理架子さん自身は健康な若い素敵な女性です。来年は全腎協の総会が札幌で開催されます。役員の方々ならびに事務局、実行委員会はいへんなことだと思いますが、頑張ってください。

新聞記事から

臓器移植の推進目指し 連絡協議会を結成へ

広域的なネットワークで、あらゆる臓器の移植医療を推進しようとして、北海道臓器移植連絡協議会の発起人会が十五日夜、札幌市内で開かれた。同会では、脳死者からの臓器移植は、厳正な条件の下に行われたと認められる必要がある」とした。そのうえで、協議会内に移植の評価、情報センターのあり方、救急医療現場、移植施設の抱える課題を検討する四つのワーキンググループを設け、具体的な検討を進めることで一致した。

発起人会に出席したのは北大、札幌医大、旭川医大をはじめ、道内の主な救急医療機関などの医師。行政関係者なども、オブザーバーとして参加した。

(7月16日朝日新聞)

編集後記

●今年が夏がこないうちに、秋が来た感じがしますね。千歳のインディアン水車にはもう蛙が上り始めました。

(永田)

●実りの秋がまじかというのに、残暑が厳しい毎日です。いかがお過ごしですか。

先日田舎の方へ足を運んだらまだ蟬が鳴いていました。夏バテは、今頃からであるそうですのでご注意ください。

(村本)

●9月15日、標津町に鮭の水族館、標津サーモンパークがオープンします。

近くの方、感想をお寄せ下さい。

(川村)

●ブロック便りを読んでいまずと、それぞれ一泊旅行や、登山、ハイキングと季節柄、屋外での交流会が盛んに開催されています。

準備や日程等、裏方の役員の皆さんは大変苦勞している事と思います。体に注意され頑張ってください。(堀井)

人工透析ツアー 千歳からの直行チャーター便で行く ハワイ5日間



▲ワイキキビーチ

これで安心です

- ① 日本語のわかる看護婦・通訳が、皆様の治療がスムーズにいくようお手伝いします。
- ② 緊急時でもすぐに腎臓専門医と連絡のとれるよう万全の体制となっています。
- ③ 千歳からまっすぐホノルルへ飛びます。(東京での乗り継ぎはありません。)
- ④ 経験豊かな添乗員が同行します。

旅行代金

¥228,000

※透析費用は含まれておりません。
(1回 \$ 260)

- 利用ホテル
ワイキキビーチホテル
- 最少催行人員 10名様
- 透析治療箇所：インターコンチネンタルメデカル・サービス付属 アロハ透析センター

日程

1992年 1月23日(木)～1月27日(月)

日次	月日曜	発着時間	発着地 所在地	交通 機関	旅 程	食 事	機 中
1	1月23日 (木曜日)	午後	千歳発	チャーター便 (JZ)	一路、ホノルルへ (日付変更線通過 レイクビューディング後、市内観光 (ヌアヌパワリ・パンチホール・ イオラン宮殿等 透析センターへ行かれる方の スケジュール ●夕刻、透析センターへご案内 致します。 ●透析開始 ●透析センターよりホテル (ホノルル泊)	機 中	機 中
		朝	ホノルル着	専用 バス		機 中	機 中
2	1月24日 (金曜日)		ホノルル		終日：自由行動 (ホノルル泊)	--	--
3	1月25日 (土曜日)		ホノルル		終日：自由行動 透析センターへ行かれる方の スケジュール ●夕刻、透析センターへご案内 致します。 ●透析開始 ●透析センターよりホテル (ホノルル泊)	--	--
4	1月26日 (日曜日)	午前	ホノルル発	チャーター便 (JZ)	一路帰国の途へ (機中泊)	--	機 中
5	1月27日 (月曜日)	午後	千歳着			機 中	--

*交通機関等の都合でスケジュールが変更になる場合がございます。

JTB

日本交通公社海外旅行札幌支店

〒060 札幌市中央区北3条西3丁目 大同生命ビル1F

TEL (011) 261-6581・231-7261
FAX (011) 222-2910

●担当：早川直美
鈴木努